

「世間の目を恐れず、自分らしく生きよう」
了ケネス・エレン
人間は他人から良い人と思われていたい、
周りからすごい人と思われたい生き物である。
私もあらゆる面で、ずっと他人の目、世間か
らの目を気にしながら、高い評価を得たいと
いう気持ちが無意識に持って生きていた。
それで、世間一般の「こうであるべき」、
「こうでなくてならない」ということに、人
生そのものが見えない他人の目で強力で強烈
な鎖に縛られて生きていた。そのため、自分
自身の価値というものを見失っていたかもし
れない。自分自身に対して望む人生ではなく、
他人が私に望んでくる人生を生きるようにな
っていた。そのことでストレスが溜まり、「
最低な人間でも良いから、もうこんな人生は
疲れた・・・」と言った感じもあった。自分
自身の望まない人生を生きるつもりはない。
他人の価値観で縛られることの無意味さに目
が覚めたかもしれない。

「なんとかかしたい」という気持ちに「今ま
どとは違う生き方をしてみたい」という強い
意志を感じた。そんな訳で、高校を卒業した
私はみんなとは違って、興味もなく行きたく
もない大学に行かないことにした。高校を卒
業して、やりたいことかわからないという場
合でも、とりあえずいい大学に入るべきとい
う考えが一般的かもしれない。だが、それで
はよく分からない世間からの評価に人生を捧
げることになってしまわないだろうか。
しかし、世間の目という物は怖いものであ
る。「あの子、大学も行かず、仕事もせず、
ずっと家に引きこもっているらしいよ。いい
年をして、親のすねかじって甘えている。」
そんな目で見られると、心が折れるのも無理
もないだろう。そういう世間の声でニート生
活をびくびく過ごして時期もあった。
しかしよく考えると、世間というのはいっ
たい何のことだろう。どこにその世間の実態
があるのだろうか。強く、厳しく、怖い物と

ばかり思っ てこれまで生きていたが、「世間」というのをよく分からない自分があった。「世間一般」とは自分が今までの人生で学んできた「常識」であって、他人がみんなそう思っているとは限らない。自分のやりたいことをやると批判する人がいれば、非常識なのでやりたいことをやらないと批判する人もいる。世間といっ て一つの考えであるとは限らないのだ。

世間の声は、根拠も信憑性もなく特に受け入れる必要はない。だからといって、世間の声を全く気にしないと独善的になってしまうだろう。世間の目を気にするのは相手に尊敬する気持ちがあるからだと思う。

結局、自分が周りの誰から評価されたいのかは自分で決めたらいいのだ。「この人の評価なら大切にしたい」そうやって、憧れている人からだけの評価を気にすればいい物だと私は思うようになった。他人の目を気にしなから生きるか、何かあろうと自分の夢を貫く

ために生きるかを決めるのは自分自身である。
そして、誰からにも高い評価を得たいとい
うことを諦めたら、自然に世間の目や評価が
気にならなくなる。私には夢がある、好きな
ことをやりたいと思っている。「夢で飯を食
っていけるのか！」という声もあるかもしれ
ないが、夢で飯が食っていけるようになるま
では、当たり前と言え、当たり前だが、ど
んな夢でも、叶えるためには諦めず頑張るし
かない。私は、一生他人の評価で縛られて生
きるよりは、自分が好きなことをやっていき
たい。自分が好きなことをすれば、自分を幸
せにし、生きがいともなる。やっていけば、
無条件で幸せになれ、元気になっってしまう。
他人である人には自分が一番幸せになれる
好きなことかわかるはずがない。だから、世
間の言葉は気にせず、素直になって、自分が
本当に好きだと思ふことをやるといい。自分
自身の心をうまく操縦できれば、他人に振り
回されず、自分の心を誰かに棄つとられるこ

ともなく、自分らしく生きる事ができるよ
うになる。周りの人が褒めてくれるからでは
なく、好きだからやることで、失敗さえも喜
びを感じ、勉強も楽しくなる。自分がやりた
いことをやるために必要な知識を身につけて
いるから、もはや勉強ではなく、楽しみにな
ってしまふのだ。私の場合は、これが日本語
の勉強だった。ニート生活の時に始めた独学
のおかげで、今、フリーターという夢を追
いかけて日本にいる自分がいる。

私は自分が納得できる生き方を探しながら、
夢を追って、自分らしくこの人生をこれから
も歩んでいこうと思っている。

～おわり～